

## ライオンズクエストおよびライフスキル教育に関する取り組み

2009、11、4

加西ライオンズクラブ

2005年11月

加西ライオンズクラブ理事会で、ライオンズクエストの取り組みについて協議

① 2006年2月1日(水) 第1例会で、ライオンズクエストについて、L小川がショートスピーチ (資料1参照)

② 2006年8月28日(月) 北条中学校ライオンズクエスト職員研修会 (資料2参照)

講師 田川 薫 さま (青少年育成支援フォーラム)

内容 ライオンズクエストプログラムの概要説明

模擬授業 「責任ある意思決定・行動をとるためのステップ」

参加者 北条中学校教師 ・336-D地区 川本ガバナー

加西ライオンズクラブ

約40名

③ 2006年10月19日(木) 泉中学校PTA教育講演会 (資料3参照)

講師 田川 薫 さま (青少年育成支援フォーラム)

内容 ライフスキル教育の概要説明と、「聞き手上手になる方法」

参加者 泉中学校生徒、教師、保護者、加西ライオンズクラブ

約500名

2006年10月19日(木) ライオンズクエスト説明会 (資料4参照)

講師 田川 薫 さま (青少年育成支援フォーラム)

内容 ライオンズクエストプログラムの概要説明

模擬授業 「友人からの良くないプレッシャーに対処する方法を学ぶ」

参加者 小中学校の校長、教頭、加西ライオンズクラブ

約20名

2007年6月16日(土) 加西市連合PTA第1回正副会長・役員会(主催 加西市連合PTA) (資料5参照)

講師 並木 茂夫 様 (元埼玉県川口市立十二月田中学校校長)

内容 「子どもたちの健康とライフスキルの育成」

参加者 市内小中学校PTA会長、副会長、役員、教育委員会事務局

67名

⑤ 2007年8月24日(金)～25日(土) ライオンズクエスト2007年 加西ワークショップ (資料6参照)

講師 佐渡 涼子 さま (ライオンズクエスト認定講師)

内容 ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」ワークショップ

受講者 北条中学校教師22名、泉中学校教師3名、加西中学校教師3名、

善防中学校教師3名、下里小学校教師1名

2007年8月25日(土) ワークショップ報告書(第1回アンケート)

(資料7参照)

- ⑥ 2007年11月22日(木) 北条中学校ライオンズクエスト公開授業 (資料8参照)  
 参観者 335-D地区ライオンズクエスト宮崎委員長、3RIZ役員他、約20名
- 2007年12月 ライフスキル教育に関する調査(2回目アンケート) (資料9参照)
- 2008年3月 北条中学校 Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラム  
 2007年9月～2008年3月実施内容表回収 (資料10参照)
- 2008年4月2日(木) ライオンズクエストの普及状況とこれからの取り組みについて報告 (資料11参照)
- 2008年9月 ライフスキル教育に関する調査(3回目アンケート) (資料12参照)
- ⑦ 2008年10月28日(火) 北条中学校ライオンズクエスト公開授業 (資料13参照)  
 フォローアップワークショップ (資料14参照)
- ⑧ 講師 北山 敏和 様 (ライオンズクエスト認定講師)  
 内容 授業参観の講評、授業実施の質疑応答等  
 参観者 教育関係者、335-D地区役員他 約40名
- 2008年10月29日(水) 泉中学校職員セミナー  
 講師 北山 敏和 様 (ライオンズクエスト認定講師)  
 内容 ライオンズクエストプログラムの概要説明  
 参加者 泉中学校教師、加西ライオンズクラブ 約30名
- 2009年3月4日(水) ライオンズクエストの普及状況とこれからの取り組みについて報告 (資料15参照)
- 2009年3月18日(水) 北条中学校 Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラム  
 2008年4月～2009年3月実施内容表回収 (資料16参照)
- ⑨ 2009年4月 北条中学校 Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラム  
 年代別実施状況表作成 (資料17参照)
- ⑩ 2009年6月24日(水) 宇仁小学校ライオンズクエスト校内研修  
 講師 田川 薫 さま (青少年育成支援フォーラム)  
 ⑪ 内容 5・6年生対象にライオンズクエスト授業「単元4 友人関係の改善」  
 ライオンズクエスト概要説明 (資料18参照)  
 参加者 宇仁小学校教師、加西ライオンズクラブ 約15名

2009年8月6日(木) 北条中学校研究推進校内研修会 (主催 北条中学校) (資料19参照)  
講師 西岡 伸紀 様 (兵庫教育大学大学院)

⑫ 2009年8月20日(木)～21日(金) ライオンズクエスト2009年 加西ワークショップ (資料20参照)

講師 北山 敏和 様 (ライオンズクエスト認定講師)

- |    |  |  |
|----|--|--|
| 内容 | 1日目  | 2日目  |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団づくり (互いに知り合う活動)</li> <li>・ ライフスキルとは</li> <li>・ 若者像の分析とまとめ</li> <li>・ ライフスキルの授業構造</li> <li>・ ライオンズクエストプログラムの理解</li> <li>・ スキルを学ぶ意味</li> <li>・ ふりかえりとまとめ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期とライフスキル</li> <li>・ 模擬授業の準備</li> <li>・ 授業 ①</li> <li>・ 授業 ②</li> <li>・ 授業 ③</li> <li>・ 授業 ④</li> <li>・ ふりかえりとまとめ</li> </ul> |

受講者 北条小学校教師 20名、宇仁小学校教師8名、  
北条中学校教師2名、九会小学校教師1名

2009年10月27日(火) 北条中学校公開授業・研究推進校内研修会 (主催 北条中学校) (資料21参照)

講師 西岡 伸紀 様 (兵庫教育大学大学院)

参観者 教育関係者、337-B地区 原田副地区ガバナー、宮崎橋LC会長、幹事  
ライオン誌記者、335-D地区 新宅ガバナー、地区役員他  
約32名

### ＜ライオンズクエストとは＞

青少年に生きる力を身に付けさせることを目的とした、ライオンズクラブ国際協会とライオンズクラブ国際財団のプログラムです。目標は、青少年が日常生活で生じるさまざまな問題や困難に対応する能力を育て、マイナス行動の誘惑に打ち勝つことが出来るよう指導することにあります。

### ＜なぜ必要か＞

これまで、よりよく生きるために必要な能力は、生活の知恵やコツとして、親から子どもへ躰というかたちを通して、また、年上の者から年下の者へ、友達同士や地域の交わりの中で、無意識に体験的に伝えられてきました。しかし、テレビやゲーム機の普及、塾通い、少子化などの傾向が強まる中で、地域や家族をはじめ年長、年少児との接触が減少し、人間関係が希薄化するに伴って、伝承の機会が極めて少なくなってきました。これまで思いつきや偶然に身につけていた「よりよく生きるために必要な技術的能力」を、きちんと整理し、体系化し、理論化して、確かな人格形成を図ろうとするのがライオンズクエストです。このプログラムは、飲酒、喫煙、薬物乱用、いじめ、不登校、暴力、早期の性交と若年妊娠など、さまざまな問題や困難に対し、その有効性が示されています。この様なことからライオンズクエストの紹介をし、普及をはかることによって、子どもたちに必要な力を補ってやれば、幸福な人生の基礎となり、豊かな社会づくりの貢献になるのではないのでしょうか。

### ＜歴史的にみると＞

1975年、アメリカの大学生、リックリトルの「学校では、勉強以外に生きる上で、必要となる力を教える必要がある。」という信念から生まれました。LCIFは、1984年にクエストインターナショナルとの共同作業を開始。2002年6月に、このプログラムの著作権を国際青少年育成財団から買い取り、世界50カ国以上の国々で40万人の教育関係者がワークショップを受講し教育現場で効果を上げています。

### ＜加西ライオンズの取り組みについての検討＞

- 1、市内の教育機関や教育関係者にパンフレット等で紹介する。
- 2、小中高等学校で体験会の実施。
- 3、教育関係者とライオンズクエストの評価。
- 4、ワークショップの情報提供。
- 5、ワークショップの参加費援助。
- 6、ワークショップの開催。
- 7、ワークショップに参加された先生方や学校に対するフォロー。

### ＜費用はどれぐらいかかるか＞

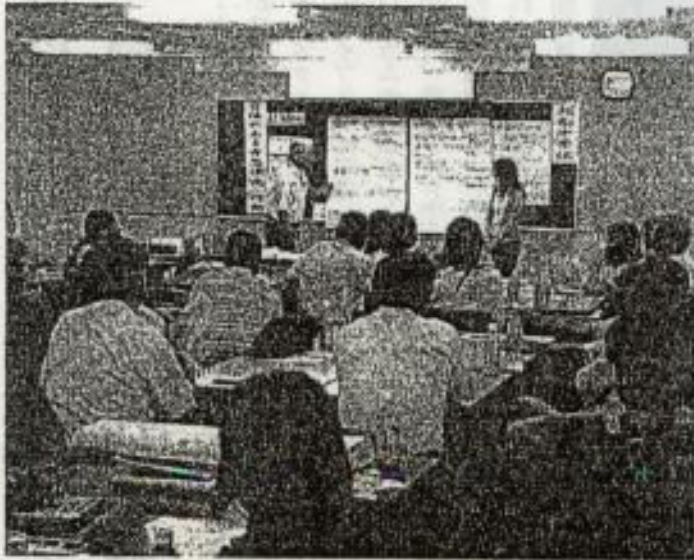
- ・体験会  
講師謝礼 20000円＋講師の交通費。
- ・ワークショップ  
個人参加の場合、参加費 12000円＋会場までの交通費＋宿泊費。  
加西市で開催する場合、開催費、約 720,000円（30人程度）必要。

# 生きる力を身につける教育プログラム 加西ライオンズCが教師対象に研修会

「下校途中、学校の先輩があなたの友達にタバコを強要しているのを目撃してしまいました。友達にはあなたに目で救いを求めてきました。あなた

はこれから塾があり、急いでいます。あなたはどのような行動をとりますか？」

これは、このほど開かれた、ライオンズクエスト



教師対象に開かれた模擬授業の発表風景

ト「思春期のライフスキル教育」プログラムの研修会で出された課題の一つ。研修会には、北条中学校教師三十名と加西ライオンズクラブメンバーらに参加。六班に分かれ、このような状況にどう対応するかを学ぶ模擬授業が行われた。

ライオンズクエストは、青少年に生きる力を身に付けることを目的としたプログラム。その一部である「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、中学生が直面する日常生活の様々な問題を前向きに乗り越えていく能力を身に付けるためのプログラム。課題に正解はなく、子ども

達は、最終的に責任ある意思決定をし、そして行動するまでのやり方やステップを学ぶ。

ライオンズクラブ国際協会と同国際財団はプログラムの著作権を取得した〇二年以後、国内で普及活動をスタート。現在、全国で十三校が全校的に取り組んでいる。加西ライオンズクラブ（小谷誠一会長）は今年度から普及活動を始め、今回の研修会のほか、十月十九日には泉中学校で保護者、教師、生徒、加西ライオンズクラブ会員が参加する講演会の開催が決まっている。

# 聞き上手になるための方法を学ぶ 泉中学校でライオンズの教育講演会

加西ライオンズクラブが普及を進めているライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」プログラムの講演会が十月十九日、泉中学校PTAの教育講演会として開かれ、生徒、保護者、教師、加西ライオンズクラブメンバーら合わせて約五百人余りが聴講した。

ライオンズクエストは青少年の生きる力を身に付けることを目的としたプログラムで、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団がプログラムの著作権を取得した〇二年以



教育講演会で田川講師の質問に答える生徒

後、国内で普及活動が進められている。「思春期のライフスキル教育」プログラムは、中学生が日常生活で生じるさまざまな問題や困難に対して、建設的に解決して乗り越えていく能力を学校の授業で学べるように作り上げたプログラムで、当日は、そのうちの一つ、「聞き上手になるための方法」が講演内容だった。講師は、プログラムの普及を専門とする青少年育成支援フォーラムの田川薫さん。

田川さんは、上手な話しの聞き方について三つのポイント、①相手の話しにうなづく。目を合わせる。相手の表情に集中。②相手の話を中断しない。自分勝手な意見を言

わない。聞かれてもいい助言をしない。③話しに沿った質問、コメントをする。自分の言葉で言い換えて相手の言葉を確認する。―と説明。生徒はポイントに従って隣同士で会話を体験、聞き方のコツを学んだ。

「聞き上手になるための方法」が講演内容だった。講師は、プログラムの普及を専門とする青少年育成支援フォーラムの田川薫さん。

田川さんは、上手な話しの聞き方について三つのポイント、①相手の話しにうなづく。目を合わせる。相手の表情に集中。②相手の話を中断しない。自分勝手な意見を言

# 日常問題の解決力を

## 講師招き会話法など学ぶ

加西・泉中

全国の学校でいじめや暴力などが問題となるなか、加西市満久町の泉中学校で十九日、子どもたちのコミュニケーション能力を養うための教育講演会が開かれた。生徒や保護者ら約五百人が、話の上手な聞き方を体験的に学んだ。



生徒や保護者らがコミュニケーション能力を高めた教育講演会＝加西市満久町、泉中学校

思春期の子どもたちにも、日常生活の問題を前向きに解決する力「ライフスキル」を身に付けてもらおうと、同校PTAが企画した。対人関係のトラブルを防ぐ方法などを学ぶライフスキル教育は、一九七〇年代に米国でスタート。日本ではNPO法人「青少年育成支援フォーラム」(東京)

などが普及に取り組んでいる。教師への暴力が横行した埼玉県の学校が、同教育を取り入れ、落ち着きを取り戻した事例もあるという。

講師は同フォーラムの田川薫さん。まず、目を合わさなかったり、相手

の話を中断したりするなど「悪い聞き方」を実演。生徒たちには問題点を考えさせた。その後、ペアを組んで実践。相づちを打ったり、質問で相手の話を引き出したりするなど、聞き上手のコツを学んだ。(末永陽子)

(第3種郵便物認可)

2014年10月1日

嫌な校舎にワークシートの活用  
ワークシート「時給のワークシート」

ワークシートの活用  
ワークシートの活用

ワークシートの活用



### 加西ライオンズC

## ライオンズ「思春期のライフスキル教育」クエスト

### 教師対象にワークショップを開く

加西ライオンズクラブ（橋爪義明会長）が積極的に普及を進めている教育プログラム、ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」のワークショップ（体験型講座）が八月二十四日、二十五

日の二日間、アステイアかさい・集会室で開かれ、参加した市内の中学校教師ら三十二人が、プログラムの内容と教材の使い方を学んだ。

ワークショップは四つの焦点、▽高めあい、伸

ばしあう学級づくり▽ライフスキルの学習と指導法▽危険行動防止教育▽模擬授業―で進められ、参加者は和やかな雰囲気の中、真剣に取り組んだ。

「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、中学生が日常生活で直面する様々な問題に対して前向きに乗り越えていく能力を身に付けるための教育プログラム。アメリカの青年リック・リトルにより開発が始まり、その後、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団が著作権を取得、世界の三十の国で学校の授業を通じて二百万人以上の青年に伝えられている。〇二年より、国内で普及活動がスタート。ワークショップにより現在、二千名を超える教師らが受講している。

### 「生きる力」伸ばすために 加西小中の教員 指導法学ぶ



子どもの「生きる力」の伸ばし方を学ぶ教員ら「加西市北条町北条、アステイアかさい」

「思春期のライフスキル教育」  
2007年加西ワークショップ



ワークショップ風景（アステイアかさい集会室）

ワークショップは四つの焦点、▽高めあい、伸

「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、中学生が日常生活で直面する様々な問題に対して前向きに乗り越えていく能力を身に付けるための教育プログラム。アメリカの青年リック・リトルにより開発が始まり、その後、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団が著作権を取得、世界の三十の国で学校の授業を通じて二百万人以上の青年に伝えられている。〇二年より、国内で普及活動がスタート。ワークショップにより現在、二千名を超える教師らが受講している。

子どもの「生きる力」を伸ばす「加西ワークショップ」がこのほど、加西市北条町北条のアステイアかさいで開かれた。加西市内の小中学校教員三十二人が参加、コミュニケーションの関り方の指導法などを学んだ。

加西ライオンズクラブの主催。子どもが日常生活の困難を解決する能力を培うプログラム「思春期のライフスキル教育」の普及活動の一環として開かれた。

ゲトム「フルーツバスケット」を採用した「何でもバスケット」を二人一組になって取り組むなどした。一緒に取り組んだ相手の気持ちを考え、コミュニケーション法を体験的に学び取った。

北条中教諭の長谷川龍光さん（右）は「参加型の研修だから分かりやすく楽しい。しっかりと吸収し、現場で実践したい」と話していた。（佐藤由里）



# 生きる力を身につける教育

## 加西ライオンズCが北条中で授業参観

加西ライオンズクラブ（橋爪義明会長）がモデルクラブとして昨年度から普及を進めている教育プログラム、「ライオンズクエスト・思春期のライフスキル教育」に北条中学校（小路重徳校長）が取り組んでいる。

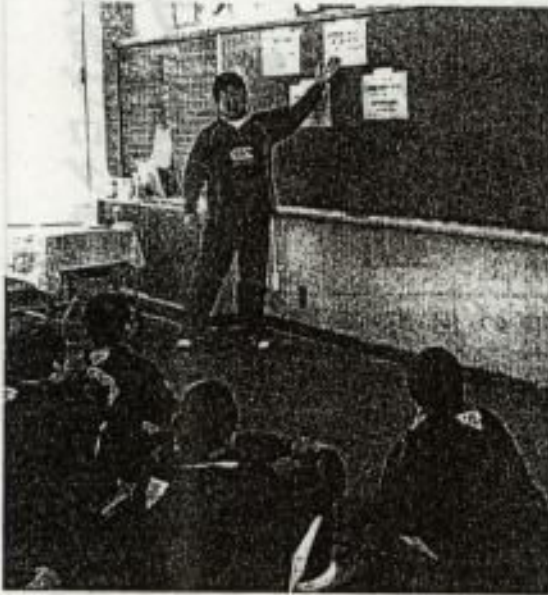
「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、中学生が日常生活で直面するさまざまな

主な問題に対して、前向きに乗り越えていく能力を身に付けるための教育プログラム。アメリカの青年により開発が始まり、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団が著作権を取得、世界の三十の国で学校の授業を通じて二百万人以上の青少年に伝えられている。〇二一年より、国内で普及活動がスタート。ワークショップは現在、二千名を超

える教師らが受講している。今年八月には、加西ライオンズが二日間の日程で開いたワークショップ（体験型講座）に北条中の三十人の教師が参加、プログラムの内容と教材の使い方などの講習を受けている。

北条中学校では総合学習の時間を使い、今年度に全校十三クラスが四時間の授業を実施。先月二十二日には加西ライオンズの会員が同校を訪問、責任感、友人関係をテーマにした授業を参観した。

北条中では来年度は八時間程度の取り組みを予定している。

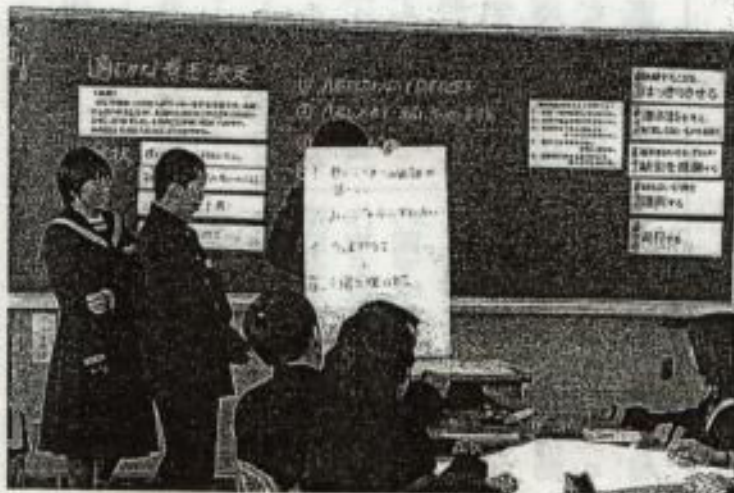


北条中で実施しているライオンズクエストの授業

北条中学校  
ライオンズクラブ  
生きる力を身につける教育

北条中学校

# 生きる力を身につける教育プログラム 加西ライオンズクラブが授業参観



ライオンズクエストの授業で発表する生徒たち

加西ライオンズクラブ  
(井上弘会長)がモデル  
クラブとして06年度か

ら市内で普及を進めてい  
る教育プログラム、「ラ  
イオンズクエスト・思春

期のライフスキル教育」。昨年からのプログラムを総合学習の授業に取り入れ、今年度も全学年が三〜五時間の授業で取り組んでいる北条中学校を先月二十八日、近隣のライオンズクラブメンバーが授業を参観。その翌日には泉中学校で、教諭を対象にライオンズクエスト認定講師によるワークショップを開催した。

を身に付けるための教育プログラム。アメリカの青年により開発が始まり、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団が著作権を取得、世界の三十の国で学校の授業を通じて二百万人以上の青少年に伝えられている。〇二年より国内で普及活動がスタート。ワークショップは現在、二千名を超える教師らが受講している。

「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、中学生が日常生活で直面するさまざまな問題に対して、前向きに乗り越えていく能力

北条中では、意思決定、怒りの感情のコントロール、目標設定などをテーマに、直面する状況から葛藤、最終行動に至るポイントなどについて学ぶ様子でメンバーが熱心に参観していた。

## 加西市立北条中学校でライフスキル教育公開授業



10月28日、加西市立北条中学校でライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」の公開授業と、フォローアップ・ワークショップが行われた。

公開授業は兵庫県西部の教育関係者やライオンズクラブ会員が多数参観する中、1年生は責任ある行動をとる人が、日常生活の中でどのように適切な意志決定をしているのかを、2年生は怒りを引き起こす外的要因と、怒っている時の身体の変化に気づき、怒りを鎮めて冷静に考える学習を。そして3年生はこれからの目標達成に向けて、「あなたならできる——短期目標」の目標設定スキルを

学習した。どのクラスとも、身近にある問題を取り上げ、生徒一人ひとりの知識の広さや深さ、経験や習熟度に応じて問題を考え、班の中で意見を出し合い、クラス全体で結果を発表することによって、物事の本質を考える力を育てるこのプログラムに、先生方と生徒が真剣に取り組んでおられる姿を見て感動した。

授業終了後、休憩を挟んでフォローアップ・ワークショップを行った。日頃、先生方がライフスキル授業をしていて疑問に思ったことや、授業の進め方について、LCIF認定講師の北山敏和先生にご教授頂いた。

先生方からは、「生徒同士が、ライフスキルで習った方法で問題を解決し

ている場面を見た」「授業だけでなく、クラブ活動の指導においても、ライフスキル教育を使っている」等の事例も紹介された。

裁判員制度により、市民が犯罪者を裁く時代になった。これからの社会は、学力だけでなく豊かな人格を育てることがますます大切になる。ライオンズクエストの授業を受けて育った生徒が大人になり、物事の本質をしっかりと判断出来、家庭力や地域力が高まることを期待している。

加西ライオンズクラブ（井上弘会長／35人）は決して大きなクラブではないが、住んでいる地域が少しでも豊かになるようがんばっている。

（第3副会長／小川初男）

### 宇仁小学校

# 生きる力を身につける教育プログラム ライオンズ クレストの 模擬授業と研修会

加西ライオンズクラブ オンスクレスト「思春期が普及を進めているライオンズクレスト」のライフスキル教育」ブ



5、6年生によるライオンズクレストの模擬授業

ログラムの採用を検討している宇仁小学校（小林俊広校長）でこのほど、このプログラムの内容を学ぶ研修会が専門の講師を招いて開かれた。

ライオンズクレストは、思春期の子ども達が友達をつくる、自分の意見を言う、自信をつける、良くない誘いを断る、忍耐をつける、感情をコントロールするなど、成長していく日々の生活の中で困ったり悩んだり、直面するさまざまな問題に対処する能力を身につけるための教育プログラムで、ライオンズクラブ

国際協会と同国際財団がプログラムの著作権を取得した〇二年以後、国内で普及活動に取り組み、市内では加西ライオンズクラブが教師を対象に模擬授業の参観や研修、生徒、保護者を対象に講演会を開くなど熱心に普及を進めすでに北条中学校が総合的な学習の時間の授業に採用している。

このプログラムは、多くが荒れた学校の建て直しを目的に導入され、各地で生徒が落ち着いた、優しくなったなど、多くの成果をあげた例がある

が、宇仁小学校は一昨年からの教育に取り組んでいることから採用を検討している。

まず、5、6年生33人で模擬授業が行われ、同校の教師が参観した。講師はこのプログラムの普及を専門とする青少年育成支援フォーラムの田川薫さん（32）。授業は友人関係をテーマに、良い友人関係と悪い友人関係の違いを生徒が発表、その違いを見分けるため、自分や他人に害を与えていないか、後悔しないか自分がされたら傷ついた困ったりしないかなどのチェックポイントについて学んだ。授業後は教師を対象にプログラムの概要が説明された。

友人関係テーマの授業

# 友人関係テーマに授業

## 「断ること」も大切

加西・宇仁小

日常生活で生じる問題を建設的に解決する「ライフスキル」の教育を推進する「青少年育成支援フォーラム」（東京都）の田川薫さん(32)による授業が24日、加西市田谷町、宇仁小学校であった。授業の進め方などを習得する教員研修の一環で、青少年教育に力を注ぐ、西ライオンスクラフの支

援を受けて実現した。テーマは「友人関係の改善」で、5、6年生33人が授業を受けた。田川さんは、友人との良い関係、良くない関係について考えさせた後、大切な人がっかりさせる行為

に誘われた場合は「注意をし、断るという対処法を知っておくことが大切」と強調。「良い関係の友人をたくさん持つと楽しく過ごせる」とまとめた。

(佐藤由里)



良好な友人関係の築き方について学んだ授業。宇仁小学校

宇仁小学校

生活科  
授業

加西ライオンズ

# 生きる力を身につける教育 教師が体験型講座で研修

加西ライオンズクラブ（高見光会長）がモデルクラブとして市内小中学校に普及を進めている教育プログラム、ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」のワークショップ（体験型講座）が8月20日、21日の2日間、加西市民会館視聴覚室で開かれ、市内の小中学校の教師31人が、プログラムの内容と教材の使い方などを学んだ。

「思春期ライフスキル教育」は学校の授業を通して、飲酒や喫煙、薬物の誘惑など、生徒が日常生活で直面するさまざまな問題に対して前向きに乗り越えていく能力を身に付けるための教育プログラムでアメリカの青年リック・リトルにより開発が始まり、その後、ライオンズクラブ国際協会と同国際財団が著作権を取得、世界の三十の国で学校の授業を通じて二十万人以上の青年に伝えられている。〇二年より、国内で普及活動がスタート。

県下でも最近の2年間で500名以上の教師が受講、近隣の小中学校で取り組みが始まっている。

加西ライオンズクラブは3年前から普及活動を始め、研修会、講演会などを開催して普及に努めている。今回のワークショップは一昨年に続く2回目の開催。認定講師を招く受講料や会場運営費などの経費は加西ライオンズが負担している。

カリキュラムでは授業



教師が生徒役となった模擬授業の風景

構造、プログラム、スキルなどの説明のほか、模擬授業などが行われ、参加者は楽しい雰囲気を取り組んでいた。